

第4号
2002.12.20

れんめい

発行 日本歯科技工士連盟
東京都新宿区市谷左内町21-5
発行人 野島正美
編集 日本歯科技工士連盟
発行日 平成14年12月20日(金)

歯科技工経済における社会施策の是正に 改めて強く決意を表明!!

—— 中西茂昭日技連盟会長 ——

改めて気概を持ちたい

会長 中西茂昭



歯科医療は医療の一分科であり、医学が対象とする人体組織・臓器のうち歯・口腔・顎系統にみられる疾病現象を解明し、その予防と治療を図り、全身健康の保持増進に貢献するものであります。

近年「噛む」ということ自体の免疫性の確保や痴呆予防への影響、寝たきり防止効果等が注目されており、これらからは、「自分で噛み、食べる」と「自立し、生きるエネルギーを生むこと」の密接なつながりを感じます。

新しい発想で歯科医療の向上と 景気の回復を!

衆議院議員 熊代昭彦

新年明けましておめでとうございます。

日本歯科技工士連盟の皆様方におかれましては、平成十五年の新年をさわやかに

す。歯科界は医科にコンプレックスを抱く必要はありません。もともと自分たちの貢献を自覚し、堂々とその価値を謳うべきであります。

歯科は今後、より一層、予防や保存に向けての理論を構築しエビデンスを形成していく必要があります。しかし、忘れてならないのは、現在また近未来にあっても依然として、歯科医療の重要な部分を占めるのは歯冠修復・欠損補綴等であるということであり、そして当然のことながら、これらには歯科補綴物の作成・修理・加工などの行為が伴います。

成の安全や質を担保させる側面があり、歯学教育からこの部分を独立させて担ったスペシャリストが「歯科技工士」なのです。これからの歯科医療が真に国民の健康寿命というニーズを受け入れ、補綴物の安全と質の担保を得るためには「いわゆる入れ歯差益」を無くし、安普請を繰り返すことを防止することが大いに役立つはず。そのために具体的にはまず保険における「製作技工相当」はその目的どおり「技工」に充てるべきなのです。

日頃より、歯科技工を通じての、歯科医療向上のため多大の御貢献をいただ

ていますことに、深く敬意を表しますとともに、暖か



いご支援を賜っていることに対し、心より御礼を申し上げます。

私は現在、自由民主党政務調査会副会長として、外交問題と行政改革を担当しております。さらに政調の金融再生特別委員会の事務局長もさせていただいてお

統的考え方でなく、新しい発想で、新しい手法を使うことが必要であります。先ず、物価が「二パーセント上昇する状況を作れば、皆が元気を出して商売や事業に励みます。これこそが景気回復の原動力です。どうすればそれが出来るか。今六十七兆円ある日銀券の発行残高を一律に十〜二十兆円増やすことです。

政府保有の特殊会社等の株十兆円を十年以内に買い戻す条件をつけて日銀に売却して、新しい紙幣十兆円を発行させ、それで補正予算を組みこと等々と方法はありますが、要は実行です。断固実行することを目指し、頑張ります。

歯科技工士問題懇談会の事務局長として、歯科技工士制度に関する諸問題に鋭意取り組み、働かせていただいたと自負していますが、さらに具体的成果を積み重ねていくことが必要です。今年も皆様のお声にしっかりと耳を傾け、国民の歯科医療の向上のために、さらにより良い働きができるよう頑張っております。

おわりに、貴連盟の益々のご発展と会員一人一人の健康と事業のご繁栄を心からお祈り申し上げます。また、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

参議院議員 伊達忠一



新年あけましておめでとうございませう。

平成十五年の新しいスタートにあたり、謹んで年頭ご挨拶を申し上げます。

私は一昨年、北海道議四期の実績と経験を生かし、地方と国の架け橋となるべく参議院議員に立候補し、身に余る好成績で当選させていただきました。ここに改めて、皆様のご支援に対し、心より感謝と御礼を申し上げます。また、本年、衛生検査技師として自ら札幌臨床検査センターを経営し、日本衛生検査所協会の名誉顧問として協会発展に從事しております。

日頃、歯科技工士会発展のため研鑽努力されておられる皆様に、深く敬意を表します。

また、別の機会に坂口大臣との懇談会を持った折、大臣自ら日本の医療を支えて

いるのは医師会・歯科医師会は勿論のこと、医療技術者の不断の努力が大きいという話しをされています。昨年四月には、このような思いから日本歯科技工士会をはじめとして各種医療技術者団体と厚生労働省との勉強会を発足いたしました。

今後、勉強会を通じ、中西会長をはじめ日本歯科技工士連盟とともにコメディカル・コデンタルの役割の大きさを示し、社会的な位置づけの明確化を促すようがんばって参る所存であります。

最後に、皆様の益々のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

この様な中、昨年の参議院厚生労働委員会におきまして、私は国会議員と同時に医療技術者の代表のひとりとして「日本の世界に誇れる医療を支えてきた医療技術者、いわゆるコメディカルスタッフ・コデンタルスタッフのきっちりとした位置づけをすることが二十一世紀のより良い医療の構築につながるのではないか」との質問を坂口厚生労働大臣に質問させていただきました。

日本歯科技工士連盟渉外活動報告

日本歯科技工士連盟は、十一月十二日

午後三時四十五分から自由民主党本部七〇一号室において開催された自由民主党「平成十五年予算・税制改正に関する協議会」に中西会長が出席。

日歯の白田会長・梅田専務も出席の中、別掲の陳情書提出をもとに厚生関係議員に陳情(資料1)。当日は、田村憲久厚生関係団体委員長、杉山憲夫組織本部長代理、中島真人厚生労働

部会長はじめ数多くの厚生関係議員が出席された。(写真1) 十一月十三日 午後三時から参議院議員会館内面談室で行われた伊達忠一参議院議員主催の医療技術者団体勉強会(歯科技工士会のみ勉強会)に中西会長、古橋理事長、時見技対部員が出席。

厚生労働省からは瀧口徹医政局歯科保健課長、千葉

二面に続く

熊代昭彦議員プロフィール

- 前内閣府副大臣
- 党行政改革事務局局長
- 党政務調査会副会長
- NPO特別委員会委員長
- 代理兼事務局長
- 元総務政務次官

東大
岡山市
当三勤九・七
昭和十五年三月二十一日生

伊達忠一議員プロフィール

- 参議院予算厚生労働・沖縄北海道特別・国民経済調査各委員
- 党参議院国会対策委員
- 元道議道立衛生研検査技師養成所卒
- 北海道
- 当一勤一・二
- 昭和十四年一月二十日生

《一面から続き》

晃一同課長補佐、間杉純保
除局総務課長、山内雅司
科医療管理官が出席し、約
一時間半にわたって歯科技
工料問題について話し合い
が行われた。(写真2)

中西会長は、歯科技工料
に関する日技の要望を厚生
労働省側に強く主張。厚生
労働省側からは、この問題
には歯科界の抱える構造的
な問題があるとの説明があ
った。

伊達議員からは「医療・
歯科医療を支えているコ
メディカル、コ・デンタル

スタッフに適正な評価が与
えられるような制度案を考
えてほしい。七対三が制度
化されても医療費が膨らむ
ということではない。良質
な医療を提供するという観
点から、引き続き勉強会を
持つて、この問題を解決に
導いていただきたい。」と
の発言があり、次回勉強会
までに、前向きな案を提示
してほしいと厚生労働省側
に要請した。

十一月十四日
午前九時三十分より、衆
議員第二議員会館内会議室
で行われた公明党「平成十

五年一度税制改正及び予算要
望等ヒアリング」に中西会
長と杉井副理事長が出席。
福島厚生労働部会長、
青山二三議員、渡辺孝夫議
員に対し、経済問題をはじ
めとする陳情を行った。
(写真3)

公明党側も歯科技工士の
懸案に関しては十分理解さ
れており、厚生労働部会、
また、坂口厚生労働大臣へ
もよく説明するとの回答を
いただいた。

十一月十五日
午前十一時より国会議事
堂内において熊代昭彦議員

と中西会長が面談。
歯科技工士の懸案、とり
わけ経済問題について一
度、ご理解の深い先生方と
の懇談を行わせていただき
たい旨を要請する。
熊代議員は、厚生行政に
詳しい議員を集めて懇談会



写真1 自民党への政策、予算の要望では、多数の厚生関係議員があつまった。



写真3 公明党とのヒアリングに参加し福島部会長に要望書を渡す

と中西会長が面談。
歯科技工士の懸案、とり
わけ経済問題について一
度、ご理解の深い先生方と
の懇談を行わせていただき
たい旨を要請する。
熊代議員は、厚生行政に
詳しい議員を集めて懇談会

を持つため、仲介の労を約
束された。
十一月二十日
正午より自由民主党本部
五〇七号室において三国副
会長、古橋理事長、東京都
歯科技工士連盟・東京都歯
科技工士会役員及び東京都



写真2 伊達議員の尽力で開催された厚生労働省との勉強会



写真4 都所属の推薦議員に案件説明

所属の日技懸案の歯科技工料問題につ
連盟推薦議
員による都
技連盟推薦
議員幹事会
が開催され
た。
八代英太
議員、小野
清子議員、
保坂三蔵議
員、森田健
作議員、松
島みどり議
員等が出席
する中、古
橋理事長が

資料1 自由民主党に提出した要望書

自由民主党
衆議院 厚生労働部会
中 島 武 人 様
参議院 厚生労働部会
田 村 憲 久 様
社団法人 日本歯科技
工 会 長 中 西

陳 情 の 主 旨

- 1. 歯科技工料を歯科診療報酬点数表として明示し、かつ歯科技工料が安定して供給されるシステムを構築して頂きたい
- 2. 厚生労働省「歯科技工士の抱える懸案に関する検討会」意見書に示された事項の早期実現化をお願いしたい
- 3. 厚生労働省独自の歯科技工士生活研修に協力を頂きたい

陳 情 の 理 由

1. 国民皆保険のもとでの歯科医療は、公共への福祉提供行為であり、「歯科技工」には定められた役割を担うこととして定立されている。しかるに、この「歯科技工」の担い手が形成過程に陥っており、本来の目的である「良質な歯科医療および欠損補綴が提供される」ことに支障が生じ、国民の不利益となっている。
歯科技工料が適正に算定されず、減額せず、技術競争を促すことにより、良質な歯科医療を提供するべきであり、歯科技工士としての国民への貢献を果たすべく、歯科技工料を歯科診療報酬点数表に明示して頂きたい。かつ歯科技工料が安定して供給されるシステムを構築して頂きたい。
なお、従前「製作費および製作技工士一連の行為であるため、診療報酬において一体的に評価することが適切である」との回答があったが、原料における値上げの診療行為と見られる。しかも、検査料は診療報酬点数表に反映させられ、歯科診療に著しく影響を与える要素である製作技工料が別途一体的に評価されるのか明確な回答を求めたい。

- 2. 歯科医療を支える歯科技工士の適正確保に資するため、平成14年8月に厚生労働省に設置された「歯科技工士の抱える懸案に関する検討会」の意見書がとりまとめられた。
その内容は、教育の質的向上と福祉の観点からの学習意欲の向上と働き方改革の推進、さらには、今年度厚生労働省への特定調査等となっている歯科技工士試験を本来の厚生労働大臣官庁にふさわしい統一試験にすることが図られている。
歯科技工士側が社会的責務を自覚し、職責を全うすることなく働かせるには、産産関係において広い知識と深い専門技術を学びとるに十分な、知的、道徳的および応用的能力の習得が必要であり、検定委員等に示された事項の早期実現化をお願いしたい。
- 3. 社団法人日本歯科技工士会は昭和42年、他の産産関係団体に先駆け、習字の発達に伴う歯科技工料の高騰化ならびに多様化する社会の需要に対応する学術研究の場を提供し、併せて産産関係者としての人格の陶冶をはかり、国民の歯科医療の発展・向上に資することを目的に生活研修制度を確立させた。
現在、この制度は厚生労働省の協力を受けているところであるが、この制度の一層の向上と充実を図るため、協力を頂きたい。

和而不同

十一月月中旬に所用があり、衆参両院議員会館を訪れた時、会館のロビーは人で溢れていた。何故そんなに混雑していたのかというところ、政府の予算案作成時期であり、各団体等がそれぞれの支援議員に対して予算措置の陳情に訪れていたからである。その話し言葉から、全国各地より来訪していることが察せられた。このように各地から団体が連日陳情に来ているとすれば、その要望や陳情の数は膨大な量にのぼるであろう。●この様子を見ていて、われわれ歯科技工士会の陳情していることが、支援している議員にどの程度届いているのか不安を覚えた。枚挙に暇がないほどの各団体からの陳情に、日技の抱える懸案が埋没してしまつては、その解決が覚束ないことは明白である。●そのような時、日技連盟の擁立した議員が国政に参画していれば、陳情はもとより、行政に対してもより円滑な交渉が展開できるであろうし、各関係団体との意思の疎通にも目に見える違いが出てくるであろう。●会創立以来半世紀を迎えようとしている現在、永年の悲願である組織内国会議員候補を擁立する時期にきたのではなからうか。そのためには選挙という洗礼を受けなければならぬが、選挙に勝つためには、適切な機会を見極めることが重要となってくるであろう。現在の歯科界の状況を自分なりに分析すれば、今が千載一遇の機会であると考えられる。●今こそ日技連盟会員が一丸となり、組織内国会議員候補擁立に立ち上がるのではない

か。(国府田)